

9月に入っても暑い日がまだまだ続く中、小学校の運動会も少し涼しくなってから開催されるなど、子どもたちの体調も配慮されるようになりました。子どものことを考え子どもの権利を守ることは、大人や社会の都合では決していきません。子どもの声を聴く、環境を整えることが、形だけにならないよう願います。また家庭では忙しいことを言い訳にしないで、子どもとの時間を作りしっかり向き合ってもらいたいと思います。難しいことはありません。我が子に対する愛情は当たり前の人権意識です。



「山梨の子ども白書」を読む

山梨県内で子どもの教育や居場所づくりなどに取り組む個人や団体が、子どもたちの抱える課題やそれぞれの活動内容等を報告した「山梨の子ども白書」2024年版が、今年8月に発刊されました。山梨大学(教育学部)教授の日永龍彦氏が編集委員会の代表を務め、「子どもたちのしあわせを願って よっちゃばる」という副題のもと、56名の方が執筆されています。

今年の白書では「白書づくりに子どもたちの声を生かす」という趣旨を実現するために、「特集1 子どもたちの声を聴く」と「特集2 子どものつづやき」が新たに加わりました。

特集1の冒頭で、増山均氏(日本子どもを守る会会長)の寄稿「子どもにとって一番いいことを探る」では、子どもの最善の利益を守るために、何よりも「子どもたちの声を聴く」ことが大切だと述べています。たとえ、言語で自らを表現できない子どもであっても、「表情、身ぶり、遊び」などの非言語的コミュニケーションを通じた「意見表明の権利」が尊重されるべきとの提言です。

特集2では、幼稚園、保育所、小・中学校の子どもたちが発した様々な言葉を紹介しています。また、保護者による子どもへのインタビュー、不登校の子どもと親の言葉や心情、子ども自身の意見表明など、今を生きる子どもたちの様々な想いに接することができます。

さらに、第1章「子どもと学び」、第2章「子どもの居場所」、第3章「子どもと福祉」、第4章「子どもと地域」、第5章「子どもとあそび・文化」では、県下各地の素晴らしい諸活動の紹介などが盛り込まれています。

その第1章の中で、鈴木正洋氏(山梨不登校の子どもを持つ親の会(ぶどうの会)代表)の寄稿「統計からみえてきた『子どもたちの生きづらさと学びづらさ』」では、「相談の中で、『学校が怖い』『学校が息苦しい』と訴える子どもが増えてきているのを感じます。不登校者の急増は、学校ストレスの主要な原因である『学力向上』という競争圧力と『規範意識』という同調圧力が異常に増大していることを示しています。」と指摘し、「もっともっと子どもたちを大事にする学校、明日も行きたくなるワクワク・ドキドキする楽しい学校にしていきたい」と結んでいます。

この「山梨の子ども白書」は2021年版から毎年刊行されており、県内の図書館などで手に取ることができます。また、「山梨の子ども白書編集委員会」のホームページ(※1)中の「白書のご案内」や「お知らせ」欄から購入申込をすることもできます。この白書を読むことで、各地で取り組まれている活動やキーパーソンを知ることができます。また、今後の子育てや教育に何が大切かを考える縁としても、ご一読をお勧めします。



(※1) 山梨の子ども白書編集委員会「山梨の子ども白書」
<https://sites.google.com/view/hymns-kdm/home>



今後の
予定

人権啓発パネル展 11月7日(木)～20日(水) 市立甲府病院、甲府市中道公民館にて、人権啓発パネル展を開催します。

人権移動教室 10月28日(月) 甲斐市立敷島小学校にて、11月8日(金) 甲府市立北西中学校にて、人権移動教室を開催します。

活動
報告

人権啓発講演会 10月2日(水) 甲府市庁舎において、人権啓発講演会を開催しました。

人権移動教室 10月3日(木) 甲府市立城南中学校にて、10月11日(金) 甲府市立千塚小学校にて、10月18日(金) 甲斐市立竜王中学校において、人権移動教室を開催しました。

人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

<協賛>
山梨県
甲府市
甲斐市

